



旧宮崎村モデルが現代医療の矛盾を解決する

この話を初めて聞いたときは本当に感動で心が躍ってしまいました。実現したいものです。



各家庭の多くが米のとぎ汁発酵液を使っていて排水がとてもきれいで、それに加え下水処理場でも、EM活性液を混入処理、排水に点滴で追加処理しています。汚泥は少なく、その汚泥も貴重な有機の肥料として使われています。

家庭や小規模農家から出されるEM栽培の農産物は土日限定に関わらず、売上が月に1千万円内外に！村にとっては大きな力となっています。

困ったときのEM

宮崎村の奇跡で広がるEM

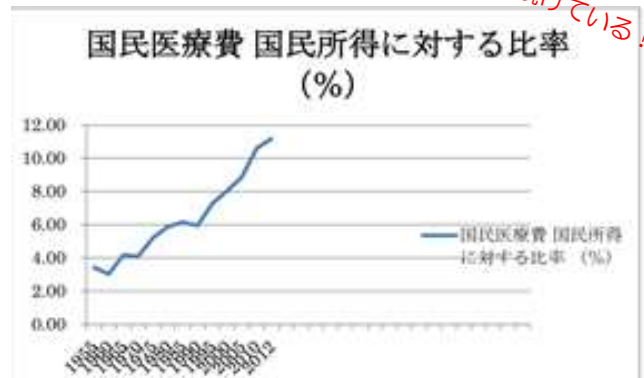
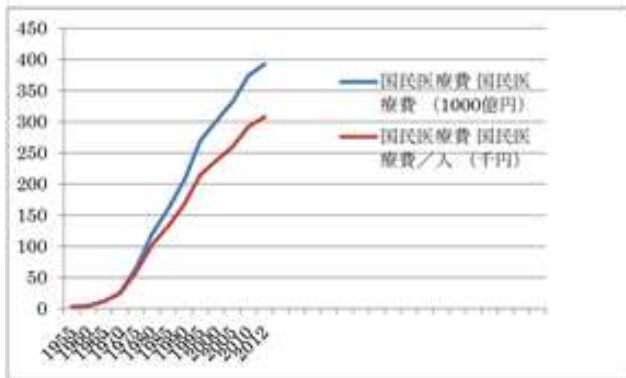
EMの効果を国も県も認めざるを得なくなり、EMを受け入れるようになりました。有機農業法も成立し、EMを軸にした有機農業の大会には、国の課長クラスも出席するようになっていきました。まさにEM時代の到来です。

EMをみんなが使う時代がくるよ

人が健康になり、医療費を必要としなくなるためには、環境、生きがい、食事、全てのものが整う必要があるのです。ね、宮崎村はEM利用からそれを教えてくれました。

奇跡の村・宮崎村は、医療費を削減しただけでなく、村の抱えていた様々な問題をEMで解決しました。

今の日本の国民医療費に注目してみましょう。厚生労働省のデータによるグラフ



どんどん増え続けている！

医療が発達していると言われてはいますが、現実には上記の表のように医療費は毎年毎年増え、国の予算を圧迫しています。平成24年度で39兆円を超えています。まさに医療産業は発達しているが、病気はますます深刻で治りにくくなっているようです。特に検査検査で高い医療機器を開発し、おまけにどんどん病気の数値を広げて昔ならまったく問題が無かったのに、病人にしたあげられている感じがしないでもありません。これからは医療に頼るのではなく、自分で病気にならないような生活を心がけることが大切です。たとえば、インフルエンザが流行ったとき、いつもかかる人とまずかからない人が明確にあります。これは免疫力の違いが大きく、食べ物、住まい、環境による生活習慣の違いによって開きがあると思われます。簡単に言えば生きる力の差です。さらにかかった人でも、毎年かかる人は何日も寝込み、めったにかからない人は翌日にはほとんど回復している。これは体質と思われるでしょうが、まさに普段の生活による回復力というか免疫力だと思います。この免疫力を自分で上げることを意識するだけで、病気は治してもらうものでなく、自分の力で治すものだと意識できるようになります。宮崎村の例を例外だと思わずに自分たちでできる意識を培ってください。大塚校長先生の例もそうです。日本に生まれ育ち生きてくことをもう一度再認識してください。かく言う私も22年前まで最悪の生活をしていました。こんなふうになれるとは思ってもみませんでした。もしも何とかしたいとお望みでしたら、どうぞ一声かけてください。

